



教授

山崎 圭一

ヤマザキ ケイイチ



大学院国際社会科学研究院

yamazaki@ynu.ac.jp

http://park23.wakwak.com/~latin_america/index.html<http://blogs.yahoo.co.jp/yamazakizemi07>

【研究概要】

私にできることは、投資環境の一部分についての情報の提供です。「人間開発」には資本主義体制は最適ではありません。資本主義の矛盾を克服する活動は、多大な潜在性をもったマーケットをうみ、ビジネス・チャンスとなります。現地の制度、構造、歴史の分析を重視しているため、日欧のグローバル企業の現場担当者からの求めに応じて、経済情報を提供しております。中南米は市場要因で左傾化で労働者の所得が改善し、結果として数億人のメガ市場が誕生したので、欧米企業の市場獲得競争が熾烈化しました。欧米企業は制度、文化などについて深く情報を集めて、投資を決定します。日本企業は欧米企業との競争においてインテリジェンス（情報）を軽視し、結果的に競争に遅れています。日本企業にとって、中南米市場は、欧米企業と闘いながらon the jobでビジネスマンの競争のセンスを磨く「道場」だとも言われています。

【アドバンテージ】

私の研究は、現地密着型で、とくに地方市場に力点を置いている点に優位性がある。実際の事業の展開は、特定の都市と農村といった空間で展開されるわけで、その投資空間の特質（資源負損、地方税制、腐敗状況、環境規制、消費者市場など）を理解しておくことは、ビジネスにとって重要である。第2に人間開発の視点から分析しているので、環境や福祉の未来型マーケットの調査に向いている。第3に、途上国一般ではなく、人口の多い、マーケットとしての有望性のたかいブラジルを専門としていることである。ただし、アジアやアフリカとの比較の視点も追究しているので、ブラジルだけを研究している専門家とは異なり、広い視野から分析ができる。第4に、市場と公的部門の双方を総合して分析している点に特徴があり、社会の変動についてより現実的な評価ができると考えている。

【事例紹介】

理系ではないので、製品開発に参加した経験はないが、論文リストにかいたように、国際貿易投資研究所の報告書、貿易と関税、エコノミスト、ラテンアメリカ時報といった、経営者や投資関係者向けの雑誌から、よく依頼され、原稿を書いている。また投資関係企業の経営者、取締役の勉強会に招待され、講演をしている。ブラジルに関する民放バラエティ番組の内容チェックの支援や、最近は地方公共団体による途上国支援（自治体ODA）について、とくに都市廃棄物の処理支援に関する助言をした。

■ 相談に応じられるテーマ

ブラジル投資環境（とくにマクロ経済環境）の現況とマクロ経済政策、租税政策の動向
ブラジル環境規制とくに自動車排ガス規制の動向と投資への影響、多国籍企業の公害への規制の動向
ブラジル投資リスクとくに公的部門の腐敗動向とintegrity system（誠実制度＝腐敗防止対策）
ブラジルの地方市場の動態と展望とくに伸長著しい市郡と衰退顕著な市郡のマクロな動向
ラテン・アメリカの環境・福祉ニーズの把握、貧困層の社会的統合の進展度合い、貧困離脱組のマーケットの成長可能性

■ 主な所属学会

日本ラテン・アメリカ政経学会
日本ラテンアメリカ学会
日本地方財政学会
日本財政学会
日本国際経済学会
IIPF（International Institute of Public Finance）

■ 主な論文

『（第3章）地方の活性化とその動因』IT I（財団法人国際貿易投資研究所）編『ブラジルの消費市場と新中間層の形成』IT I, (39頁～66頁）2009.3
『クリチバ市の家庭系廃棄物政策』「ラテンアメリカ時報、通巻第1384号、秋号（日本ラテンアメリカ協会刊行）（30頁～34頁）」2008
『『ブラジルコスト』の歴史的背景とコスト削減の展望—未熟な『福祉国家』の税源涵養策—「貿易と関税」2008.1
『学者が斬る ブラジル成長経済が生む矛盾』「エコノミスト」2007.1
『ブラジル参加型予算の意義と限界』「経済科学通信、基礎経済研究所発行」2006.9

■ 主な著書

『進化する政治経済学』レイライン 2013（単著）
『リオのピーチから経済学—市場万能主義との決別』新日本出版社 2006.3（単著）
『ラテン・アメリカは警告する—「構造改革」日本の未来』新評論 2005（共著）
『ブラジル新時代—変革の軌跡と労働者党政権の挑戦』勁草書房 2004（共著）